

定期作況報告

(第6号 令和5年10月20日現在)

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 上川農業試験場

1. 気象概況

令和5年9月下旬から10月中旬までの気象は次のとおりである(表1)。

9月下旬:平年に比べて平均気温は0.5℃高く、降水量は11.9mm少なく、日照時間は5.9時間少なかった。

10月上旬:平年に比べて平均気温は0.2℃低く、降水量は23.6mm多く、日照時間は2.6時間少なかった。

10月中旬:平年に比べて平均気温は1.1℃高く、降水量は31.0mm多く、日照時間は8.9時間多かった。

表1. 気象表

調査項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(℃)	14.3	13.8	0.5	11.3	11.5	-0.2	9.3	8.2	1.1	11.6	11.2	0.4
最高気温(℃)	21.0	20.4	0.6	17.1	17.0	0.1	16.1	13.8	2.3	18.1	17.1	1.0
最低気温(℃)	8.9	8.1	0.8	7.2	6.5	0.7	3.8	3.1	0.7	6.6	5.9	0.7
降水量(mm)	18.5	30.4	-11.9	67.0	43.4	23.6	66.0	35.0	31.0	151.5	108.8	42.7
降水日数(日)	3.0	3.9	-0.9	5.0	5.2	-0.2	4.0	5.7	-1.7	12.0	15.0	-3.0
日照時間(hrs)	49.9	55.8	-5.9	38.6	41.2	-2.6	50.7	41.8	8.9	139.2	138.8	0.4

注) 比布アメダス観測値。平年は過去10か年の平均値。

2. 作 況

1) 水稲 平年並

5月20日現在：平年並

事由：播種は平年より2日早い4月14日に行った。出芽の揃いは良好であった。

移植は平年より1日早い5月19日に行った。移植時の草丈は平年より0.8～1.2cm長く、第1葉鞘高は並から0.2cm長かった。葉数と茎数はほぼ平年並であった。苗100本当たりの地上部乾物重は平年より0.35～0.48g重かったが、苗の充実度を示す地上部乾物重/草丈は平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

6月20日現在：平年並

事由：移植後の5月下旬の気温はやや低く推移し、生育は停滞した。その後の気温は6月上旬が平年並、6月中旬が平年よりやや高く推移し、生育は概ね回復した。6月20日時点の草丈は平年より6.0～7.6cm高かったが、 m^2 当たりの茎数は4～13%少なく、主稈葉数は0.1～0.2枚多かった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：平年並

事由：6月下旬の平均気温は平年より高く、日照時間も長かったことから、生育は進んだ。幼穂形成期は平年より2日、止葉期は4～5日、出穂期は5～6日それぞれ早かった。穂揃は良好であった。茎数は平年並から4%少なく、出穂が早まったため草丈は平年より5.9～8.5cm長く、主稈の止葉葉数は0.1～0.4枚少なかった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

8月20日現在：平年並

事由：7月下旬以降の平均気温は平年並からやや高く経過し、登熟は順調に進んでいる。稈長は平年より「ななつぼし」で1.5cm短く、「ゆめぴりか」で2.0cm長く、穂長は並から0.7cm長かった。 m^2 当たり穂数は5～7%少なかった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

9月20日現在：平年並

事由：8月下旬の平均気温はかなり高く、登熟期間の平均気温は高く推移したため、成熟期は平年より9日早く、登熟日数は3～4日短かった。「ゆめぴりか」で倒伏が一部発生した。稔実歩合は平年より1.7～2.7ポイント高かった。一穂粒数は「ななつぼし」が4.8%少なく「ゆめぴりか」が5.3%多く、 m^2 当たり稔実粒数は「ななつぼし」が7.1%少なく「ゆめぴりか」が平年並であった。登熟歩合は平年より1.5～3.7ポイント高かった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

10月20日現在：平年並

事由：精粒重は「ななつぼし」と「ゆめぴりか」で各々平年比97%、101%であった。屑米歩合は平年より「ななつぼし」が0.8ポイント低く、「ゆめぴりか」が0.7ポイント高く、精玄米千粒重は「ななつぼし」が0.5g重く、「ゆめぴりか」が平年並であった。精玄米重は「ななつぼし」が679kg/10a、「ゆめぴりか」が645kg/10aで、各々平年比99%と102%であった。

これらのことから、作況は「平年並」である。

表2. 10月20日の水稻の生育

品種名		ななつぼし			ゆめぴりか			
項目 / 年次		本年	平年	比較	本年	平年	比較	
生育期節	播種期 (月.日)	4.14	4.16	△ 2	4.14	4.16	△ 2	
	移植期 (月.日)	5.19	5.20	△ 1	5.19	5.20	△ 1	
	幼穂形成期 (月.日)	6.21	6.23	△ 2	6.22	6.24	△ 2	
	止葉期 (月.日)	7.07	7.11	△ 4	7.07	7.12	△ 5	
	出穂期 (月.日)	7.16	7.21	△ 5	7.15	7.21	△ 6	
	成熟期 (月.日)	8.29	9.07	△ 9	8.30	9.08	△ 9	
	穂揃日数 (日)	6	8	△ 2	7	8	△ 1	
	登熟日数 (日)	44	48	△ 4	46	49	△ 3	
	生育日数 (日)	137	144	△ 7	138	145	△ 7	
移植時	草丈 (cm)	14.7	13.5	1.2	14.4	13.6	0.8	
	葉数 (枚)	4.2	4.1	0.1	4.3	4.2	0.1	
	茎数 (本)	2.0	1.9	0.1	2.0	2.0	0.0	
	第1葉鞘高 (cm)	2.6	2.4	0.2	2.4	2.4	0.0	
	地上部乾物重 (g/100本)	4.88	4.40	0.48	4.78	4.43	0.35	
	地上部乾物重/草丈	0.33	0.32	0.01	0.33	0.33	0.00	
本田生育	葉数 (枚)	6月20日	8.2	8.0	0.2	8.4	8.3	0.1
		7月20日	10.0	10.1	▲ 0.1	10.2	10.6	▲ 0.4
		止葉葉数	10.0	10.1	▲ 0.1	10.2	10.6	▲ 0.4
	茎数 (本/m ²)	6月20日	467	535	▲ 68	573	597	▲ 24
		7月20日	726	723	3	820	853	▲ 33
	草丈 (cm)	6月20日	45.3	39.3	6.0	44.2	36.6	7.6
7月20日		88.3	82.4	5.9	89.7	81.2	8.5	
成熟期	稈長 (cm)	68.2	69.7	▲ 1.5	68.0	66.0	2.0	
	穂長 (cm)	16.7	16.7	0.0	17.4	16.7	0.7	
	穂数 (本/m ²)	650	682	▲ 32	741	799	▲ 58	
収量構成要素	一穂粒数 (粒)	49.4	51.9	▲ 2.5	45.6	43.3	2.3	
	m ² 当たり粒数 (×千)	32.1	35.3	▲ 3.2	33.8	34.6	▲ 0.8	
	稔実歩合 (%)	96.6	94.9	1.7	94.7	92.0	2.7	
	m ² 当たり稔実粒数 (×千)	31.0	33.4	▲ 2.4	32.0	31.7	0.3	
	同上比 (%)	93	100	▲ 7	101	100	1	
	登熟歩合 (%)	90.3	86.6	3.7	84.4	82.9	1.5	
	籾摺歩合 (%)	82.0	80.3	1.7	78.6	78.3	0.3	
	屑米歩合 (%)	1.6	2.4	▲ 0.8	4.5	3.8	0.7	
	精玄米千粒重 (%)	22.8	22.3	0.5	22.7	22.7	0.0	
収量	藁重 (kg/10a)	626	656	▲ 30	606	632	▲ 26	
	精粒重 (kg/10a)	824	852	▲ 28	816	806	10	
	精玄米重 (kg/10a)	679	688	▲ 9	645	634	11	
	収量平年比 (%)	99	100	▲ 1	102	100	2	
	検査等級 (等)		1下			2中		

注1) 平年値は前7か年中、令和元年（最凶年）、平成29年（最豊年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”を、▲は平年より“減”を示す。

3) 育苗耕種概要 育苗様式：成苗ポット苗

施肥：成苗培土Hを約1.43 (kg/箱) 充填、
成分量 N 0.5、P₂O₅ 1.0、K₂O 0.8、MgO 0.2 (g/箱)、
置床 N 25.0、P₂O₅ 0.0、K₂O 10.0 (g/m²)

4) 本田耕種概要 栽植密度：25.3株/m² (33.0cm×12.0cm)、3本植

施肥量：N 8.0、P₂O₅ 9.7、K₂O 6.9 (kg/10a)、堆肥 1000 (kg/10a)

5) 精玄米千粒重および精玄米重：網目1.90mm以上、水分15%換算。

2) 秋まき小麦 (R5年播種) 不良

10月20日現在：不良

事由：9月中旬に降雨が続いたことから播種作業が遅れ、播種期は平年より6日遅い9月22日、出芽期は平年より4日遅い9月30日となった。播種期が遅かったことから生育量は少なく、葉数、草丈および茎数は平年を下回った。

したがって、目下の作況は「不良」である。

表3. 10月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名		きたほなみ		
項 目 / 年 次		本 年	平 年	比 較
播種期 (月.日)		9.22	9.16	6
出芽期 (月.日)		9.30	9.26	4
出穂期 (月.日)			6.04	
成熟期 (月.日)			7.16	
越冬茎歩合 (%)			106.7	
雪腐病発病度			17.3	
葉数(枚)	令 5年10月20日	3.3	4.3	▲ 1.0
草丈 (cm)	令 5年10月20日	12.9	18.0	▲ 5.1
	令 6年 5月20日		42.7	
	令 6年 6月20日		88.4	
茎数 (本/m ²)	令 5年10月20日	411	633	▲ 222
	令 6年 5月20日		916	
	令 6年 6月20日		562	
成熟期	稈長 (cm)		78	
	穂長 (cm)		8.6	
	穂数 (本/m ²)		452	
子実重 (kg/10a)			515	
同上平年比 (%)			100	
容積重 (g/L)			842	
千粒重 (g)			42.5	
蛋白質含有率 (%)			9.2	
検査等級 (等)			1等	

注1) 平年値は前7か年中、収穫年における令和5年（最豊年）、平成30年（最凶年）を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より“減”を示す。

3) 大豆 良

5月20日現在：

事由：播種は、平年より1日早い5月18日に行った。

6月20日現在：やや良

事由：播種後に適度な降雨があったことから出芽期は平年より2日早い5月30日となった。主茎長は平年より長く、主茎節数は平年並であった。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

7月20日現在：やや良

事由：6月中旬から下旬の気象が高温多照で経過したことから、開花期は平年より6日早い7月7日となった。主茎長は平年に比べ長く、主茎節数は平年並で、分枝数は多かった。なお、6月29日および7月11日の豪雨により試験区の一部が倒伏した。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

8月20日現在：やや良

事由：主茎長は平年に比べ長く、主茎節数は平年並で、分枝数および着莢数は多かった。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

9月20日現在：やや良

事由：開花期が平年より早かったこと、8月下旬から9月上旬の気温が高温で推移したことから、成熟期は平年より9日早い9月8日となった。成熟期の主茎長は平年よりやや長く、主茎節数および分子数は平年並で、着莢数は多かった。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

10月20日現在：良

事由：子実重は459kg/10aで平年比115%と多かった。百粒重は30.8gと平年より軽く、屑粒率は0.9%と平年よりやや少なかった。

したがって、目下の作況は「良」である。

表 4. 10月20日の大豆の生育

品 種 名		ユキホマレ		
項 目 / 年 次		本年	平年	比較
播種期 (月.日)		5.18	5.19	△ 1
出芽期 (月.日)		5.30	6.01	△ 2
開花期 (月.日)		7.07	7.13	△ 6
成熟期 (月.日)		9.08	9.17	△ 9
主茎長 (cm)	6月20日	17.4	13.0	4.4
	7月20日	62.3	54.7	7.6
	8月20日	63.4	59.1	4.3
	9月20日	61.3	58.3	3.0
	成熟期	61.3	58.3	3.0
主茎節数 (節)	6月20日	3.9	3.7	0.2
	7月20日	10.0	9.6	0.4
	8月20日	10.4	10.2	0.2
	9月20日	10.3	10.2	0.1
	成熟期	10.3	10.2	0.1
分枝数 (本/株)	7月20日	7.4	5.6	1.8
	8月20日	7.5	6.4	1.1
	9月20日	6.3	6.1	0.2
	成熟期	6.3	6.1	0.2
着莢数 (個/株)	8月20日	93	84	9
	9月20日	107	77	30
	成熟期	107	77	30
子実重 (kg/10a)		459	400	59
同上平年比 (%)		115	100	15
百粒重 (g)		30.8	33.6	▲ 2.8
屑粒率 (%)		0.9	1.4	▲ 0.5
検査等級 (等)			2中	

注1) 平年値は前7か年中、平成29年（最豊年）、令和3年（最凶年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”を、▲は平年より“減”を示す。

4) 小豆 不良

6月20日現在：平年並

事由：播種は、平年より2日遅い5月25日に行った。播種の遅れを反映して出芽期も2日遅かったが、6月上旬の降水量が多く十分な土壌水分が確保できたことと、6月中旬の気温が高く推移したことから、主茎長、本葉数とも平年並であった。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：やや良

事由：6月下旬のまとまった降雨で土壌水分が十分に確保され、主茎長は平年を上回った。本葉数も平年より多く、分枝数は平年並であった

したがって、目下の作況は「やや良」である。

8月20日現在：平年並

事由：開花期は平年より1日遅かった。主茎長および本葉数は平年をやや上回っているが、分枝数および着莢数はほぼ平年並であった。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

9月20日現在：平年並

事由：成熟期は平年より11日早かった。主茎長は平年より長く、主茎節数、分枝数および着莢数は平年並であった。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

10月20日現在：不良

事由：成熟期の莢数および屑粒率は平年並であったが、百粒重が平年より軽く、子実重は平年比83%であった。

したがって、目下の作況は「不良」である。

表5. 10月20日の小豆の生育

品 種 名		エリモシヨウズ		
項 目 / 年 次		本年	平年	比較
播種期 (月.日)		5.25	5.23	2
出芽期 (月.日)		6.11	6.09	2
開花期 (月.日)		7.25	7.24	1
成熟期 (月.日)		9.03	9.14	△ 11
主茎長 (cm)	6月20日	5.0	4.4	0.6
	7月20日	30.6	24.0	6.6
	8月20日	67.4	61.8	5.6
	成熟期	76	69	7.0
本葉数 (枚)	6月20日	1.0	0.7	0.3
	7月20日	8.7	7.5	1.2
	8月20日	13.2	12.5	0.7
主茎節数 (節)	成熟期	13.5	13.5	0.0
分枝数 (本/株)	7月20日	5.6	5.4	0.2
	8月20日	5.9	6.0	▲ 0.1
	成熟期	5.9	6.2	▲ 0.3
着莢数 (個/株)	8月20日	61	58	3
	成熟期	52	54	▲ 2
子実重 (kg/10a)		291	350	▲ 59
同上平年比 (%)		83	100	▲ 17
百粒重 (g)			14.2	
屑粒率 (%)			4.1	
検査等級 (等)			2中	

注1) 平年値は前7か年中、平成29年（最豊年）、令和3年（最凶年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”を、▲は平年より“減”を示す。